

未来への取り組み③

～豊かな環境を未来へつなぐまち～

先人から受け継がれてきた本町の豊かな地域資源を、次の世代へ引き継ぐための取り組みが行われています。



サステナブルアワード

町内企業における環境への配慮、働きやすい職場形成などのサステナブル経営を推進し、持続可能な地域経済の活性化を目指すとともに、これらの取り組みを可視化することで町内企業の非財務的な価値の向上を図ることを目的として「矢巾町サステナブルアワード」を2024年、2025年と2回実施。

サステナブルな取り組みを「TERRAST for Enterprise」というツールによってスコアリングを行い、ESGの観点から環境、社会、ガバナンスに関する各種指標を用いて評価。

評価結果の上位企業には表彰を行うとともに、町の広報媒体で取り組みについて発信し、サステナブル経営の輪を広げています。



バイオマス発電

南昌山の麓に、木質チップを燃料とした「古里FICエネルギー合同会社バイオマス発電所」が2026年5月27日に営業運転をスタート。発電所では、今まで山に放置されてきた林地残材など、県内産の木材をチップ化し燃料として使用しています。発電所の運営のため地元雇用を創出。また、支障木、松くい虫被害木の活用を進めるとともに、果樹剪定枝の活用を検討しています。

地域の森林資源を活用して再生可能エネルギーを生み出す施設として、安定的な電力供給と林業など地域振興の両立に貢献しています。

農業振興への取り組み

数多くの認定農業者が魅力ある農作物を育てており、各地域では集落営農組織等が豊かな自然環境を守るべく農作業を行っています。また、農業分野で地域おこし協力隊が活躍しているほか、新規就農者への支援も積極的に行っており、各種助成制度も準備されています。

有害鳥獣対策については、矢巾総合射撃場が立地しており免許取得への助成制度もあるなど捕獲の担い手の育成に積極的に取り組んでいます。また、山沿いに電気柵を設置するなど地域ぐるみでの活動も行われています。



地域おこし協力隊の北村さん